

ひたち野

株式会社化後の商工中金の役割と 水戸支店着任にあたっての抱負

株式会社 商工組合中央金庫

水戸支店 支店長 羽根 正 人



茨城県中小企業団体中央会並びに会員の皆さま方には、平素より商工中金の業務運営に対しまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本年3月の人事異動により、水戸支店長を拝命致しました羽根正人でございます。着任にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

それでは、初めに簡単な自己紹介をさせていただきます。昭和40年生まれで、出身は和歌山県橋本市です。昭和62年4月に商工中金に入庫（本店営業部）し、以降、船場支店、業務推進部、奈良支店、総合企画部、新体制検討チーム、秘書室にそれぞれ勤務致しました。

着任して4カ月になりますが、茨城は、大企業に負けない高い技術力やわが国を代表する先端科学技術を持つ企業、モノづくりに厚い情熱をかける経営者の方々が非常に多いということを実感しております。また大自然に恵まれ、気候も温暖で、自然災害も少なく、交通インフラが整備された豊かで住みやすい地域であり、公私ともに充実した日々を過ごしております。

ご周知のとおり、世界経済は米国を震源とする金融危機を発端として、国内・県内経済ともに、厳しい情勢が続いております。中小企業もかつてない厳しき局面を迎えており、資金繰りの一層の悪化が懸念される等、予断を許さない状況が続いております。

こうした環境の中、私ども商工中金は、昨年10月に株式会社化致しましたが、「今までと変わらぬスタンスで、中小企業の皆さまのための機能・役割をしっかりと果たしていく」、との決意のもと、お取引先からの相談に対しまして、懇切・丁寧かつ迅速な対応に努め、セーフティネット機能の発揮に全力を挙げて取り組んでまいりました。

特に、本年1月末以降におきましては、平成20年度第二次補正予算で措置された商工中金の「危機対応業務」の融資枠1兆2,000億円を活用し、中小企業金融の円滑化に努めてまいりました。

更に、本年5月には平成21年度補正予算が成立し、この融資枠が3兆円追加され、合わせて4兆2,000億円規模の金額が措置されることとなりました。

こうした措置に加えまして、「危機対応業務」を円滑に実施するために、商工中金にとって必要となる財務基盤を確保するという目的で、「危機対応準備金」を創設し、政府が出資できるようにすること、そして、政府保有株を全て処分する時期を3年半延長し、平成24年4月から起算して、概ね5～7年を目途とすること、これらを内容とする商工中金法の改正法が6月に成立致しました。なお、平成21年度補正予算では、この「危機対応準備金」への出資額として1,500億円の金額が計上されました。

私どもは、お取引先の熱い期待に応えるため、こうした政府の財政措置を最大限に活用しつつ、今まで以上にセーフティネット機能の発揮に万全を期すことにより、この難局を皆さまと一緒に克服していきたい、と思っております。また、同時に、経営環境が大きく変化しているこの局面を迎え、お取引先が抱える課題・ニーズを的確に把握し、これらとしっかりと向き合いながら、中小企業の皆さまの成長・発展、ひいては県内経済の活性化に少しでもお役に立てるよう、全力を挙げて頑張りますので、なにとぞ格別のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、皆さま方の今後の益々のご発展を心からお祈り致しまして、ご挨拶とさせていただきます。